



# 月刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番  
(分) 043 (222) 4528

97.1.10 No. 4528

# 今年こそJR総連解体の年に! 「分民」から10年正念場の国鉄争いに勝利しよう

## 敵最大の破綻点

今年の三月で、国鉄の分割・民営化が強行されてからまる十年だ。

国鉄清算事業団の累積債務問題、貨物、北海道・四国・九州一三島の経営問題など、分割・民営化攻撃は完全に破綻したと云わざるをえない。結局、十年を経て矛盾を抱えきれなくなったのは敵の側であった。

その敵の最大の破綻点が労務政策だ。分割・民営化の時に目論んだ一企業一組合は完全に破産した。

分割・民営化から十年を経て今もなお動労千葉と動労総連合そして、闘争団を先頭とする国労三万が屈することなく闘いつづけている一分割・民営化の最大の目的であった国鉄労働運動の解体が達成されずにいる一これが敵にとっての分割・民営化攻撃の最大の破綻点だ。

敵の側にとって分割・民営化とは動労千葉、国労を解体しなければ決着がつかないということだ。十年をむかえて、日本帝国主义、JR資本、JR総連革マル三位一体となった国鉄労働運動解体攻撃、これと闘う動労千葉、国労。これが今日、正念場を向えた国鉄闘争の対決構造だ。

我々にとって、こんなに有利な戦場はない。敵の攻撃の先兵はJR総連革マルだ。闘いの勝

利の道は、敵にとっても最大の弱点であるJR当局とJR総連の結託体制、この最弱の環であるJR総連革マルを打倒することにある。

この闘いが分割・民営化体制をぶちやぶり、我々の側から「十年目」に決着をつけ、国鉄決戦の勝利を切り開くことはあきらかだ。

## 「JR総連の 崩壊と民営化」

また、このことがJR総連革マルに最大の危機をもたらしている。要するに、「動労千葉、国労を潰せない役立たずの革マルは御用済み」だからだ。事実、昨年の株主総会までJR東労組は組織が崩壊するかの瀬戸際までたたされている。

支配階級には、あまりにも異様な当局と革マルの結託体制を解体して純御用組合をつくるという狙いがあるからだ(箱根以西におけるJR連合への分裂、新潟のグリーンユニオンの結成など)。

後日、松崎は十一月におこなわれたJR東労組の政策フォーラムにおいて「この東日本の労使関係というのは一年前に完全に破壊されたんだと、こういう怒りに、しかも、そういうものをバネにしなければならぬ、だから私は、松田を守れというのは、私と同じ年令でおおいに

やり合える相手だからではなく、きたのである。

この会社のシンボリックな人物として松田を守れと言っているわけです」と述べているが、このことは、株主総会で松田社長や花崎総務部長が更迭されることとは即、結託体制の崩壊を意味するからだ。

支配権力からの「お払い箱」の怯えるJR総連革マルは、唯一の延命の道である結託体制を守り、一「ワークシェアリング」「軍需生産、戦争協力」をうちだした二つの松崎講演から、「われわれを裏切れば山手線はガタガタになる」「妨害もいろいろでしてくるが、とりあえず六月の株主総会までいるいるある」と経営陣を威嚇・牽制し、「背す客観的条件をもつのであり、後に国労の黒い影」「分割・民営化に反対するものの犯行」とあわよくば、自作自演のデマをもって国労や動労千葉の破壊を策した。

こうして、彼らが延命した最大のポイントとなったのが、「より一層の健全かつ強靱な労使関係をめざして」締結された「第三次労使共同宣言」だ。これによってかろうじて結託体制を維持して組織内を固め、一方で全面的に資本の先兵として奴隷の忠誠と国労、動労千葉の解体を権力・当局に誓ったのである。

JR総連の生き残りのために「国労解体方針」をうちだし、ファシスト労働運動として一層純化することをとおして、自らを日帝、JR資本に売り込んで

## 労働運動の 未来を 未来を

いまや、完全にJR総連革マルは、闘う国鉄労働者、否、心なっている。国労三万が「JR総連革マル許さない」と怒りを高めている。全国のあらゆるところでJR総連革マル打倒の闘いが火を噴く状況を迎えているのだ。

そもそも一九三〇年代がそうであったように、大失業と戦争の時代とはファシズムを生みだす客観的条件をもつのであり、

JR総連革マルとの闘いは、ひとり国鉄のみならず日本労働運動の未来がかかった闘いだ。「JR総連はファシスト労働運動だ」と声を大にして徹底的に暴露、断罪し、全労働者の革マルに対する怒りを解き放ち、その最先頭で、動労千葉は、国鉄決戦勝利にむけ、今年こそJR総連解体の年とすべく総決起しよう!

